

ミノルタ千代光会 会報 No.164

2025年 年初のご挨拶

会長 大場 勝

2025年、明けましておめでとうございます。皆さんと新しい年の始まりを一緒に迎えられること、心より感謝申し上げます。

本年は21世紀に入ってから25年目、四半世紀最後の年となります。覚えておられますか、アメリカでの同時多発テロが起きたのは21世紀初頭でした。その後は、各地の領土紛争や戦争の勃発、サーズ(Sars)から最近のコロナまでの感染症流行、CO2増加による地球温暖化現象の増幅、甚大な自然災害など国内外を問わず人々の暮らしに大きな影響を及ぼした四半世紀でした。そうした中、関西においては今年大阪・関西万博が開催されます。将来に開花する



「朝焼け」数年前、冬の木曽駒ヶ岳に行った時の写真です。ここへは、駒ヶ根バスセンターからバスとロープウェイで2600メートルの千畳敷まで、一歩も歩かず雪山に行けます。ロープウェイ駅の横には、ホテル(山小屋)もあり、一泊して日の出と共に外へ出て見れば、雪山が全面朝焼けに染まっています。その時の写真の一枚です。(撮影者:寺内伸也)



2025年も引き続き

技術、期待される生活が展示されますので大いに楽しみたいものです。この四半世紀でデジタル化が進み、携帯電話もほとんどの人がスマホを持つようになり、日常のコミュニケーションが格段と便利になりました。デジタル化で仕事の形態も変化し、社会の仕組みも変わりつつあります。当会の運営面でもホームページの開設やリモートでの会議、打ち合わせが可能となりました。今後も進歩しAIの時代で更に変化していくことでしょう。さて、ミノルタ千代光会はこの四半世紀後の2026年に創設50周年を迎えます。2001年からの25年間で、会員数は600名が900名に増えた後は減少に転じ現在は約700名となっており、会員の平均年齢は八十の壁の手前で頑張っています。デジタル社会に慣れた人たちは60才定年後も働いている方が多いのも特徴で、当会への入会をお誘いするタイミングを失うことにもなっており、そのような方にもお声を掛けて頂き会員増に繋がることを期待しています。また、高齢になるにつれ体力は低下し多くの方と会う行事に参加して和(なご)む機会を持てなくなりますが、当会のようなOBの輪に繋がっていることでその孤独感が和(やわ)らぐということも聞いており、今後ともミノルタ千代光会を身近に感じていただけることを願っております。

目次: No. 164

2025年 会長挨拶	1
会員便り	1
関西地区秋の行事報告	2
各地区の総会のご案内	3
HP閲覧のおすすめ	3
事務局からお知らせ	3,4
理事会だより/著作紹介	4
追悼の辞	4,5

関西地区会員 加納隆司さん

趣味の紹介 「根付」(第2弾)

加納さんは、趣味として彫刻刀で色々な「根付」を掘っておられることを紹介(会報160号)致しました。

細かな造形が施された素晴らしい工芸品群が届きました。



会員便り

き会員の皆様が健康で安心の日々をお過ごしになられることを祈念し、また当会創設50周年の年へのステップにすべくミノルタ千代光会の活動に皆様のご協力をお願い申し上げます。

2024年度 関西地区の秋の行事

《関西地区》

十一月十四日 四十一名参加
「なんばグランド花月観劇と食事会」

今年の秋の行事は、難波千日前にある「なんばグランド花月」の観劇でスタートしました。「なにわのブロードウェイ」道頓堀五座で発展した上方の芝居文化の流れを受け継ぎ、いまや関西におけるお笑い文化の聖地となっています。

劇場入り口で事務局から当日の葉と入場券を受け取り二階会場に向かうものの周りは、修学旅行生・企業団体・ツーリスト・沢山のファンで朝の通勤ラッシュの様相を呈していました。

吉本新喜劇は毎週土曜日に毎日放送で放映されていて、皆さんよく御存じだと思いましたが、劇場での生の観劇に参加者の皆様は感激されたのではないのでしょうか。

なんばグランド花月 NANBA GRAND KAGETSU	
11月14日 木	
本公演1回目 11:00開演	
11:00	ダブルヒガシ
11:05	ティーアップ
11:15	矢野・兵衛
11:25	桂小枝
11:35	ブラックマヨネーズ
11:45	海原やすよ ともこ
11:55	中川家
12:05	桂文珍
12:20	休憩
12:30	【吉本新喜劇】アキ
13:15	Mr.オウケ 末成映重 清水けんじ ほか

タバタ劇の「満天ホテル」名に、我がプラネタリウム「満天」に偶然を感じました。参加者全員、公演内容に抱腹絶倒、笑いの渦に引き込まれ時間が経つのを忘れ楽しみました。

午前十一時からの観劇を終え懇親会の会場に向かう道すがら、先ほどの演劇内容について談笑しながら、千日前商店街の中をそ



着席、いよいよ宴のはじまりです。

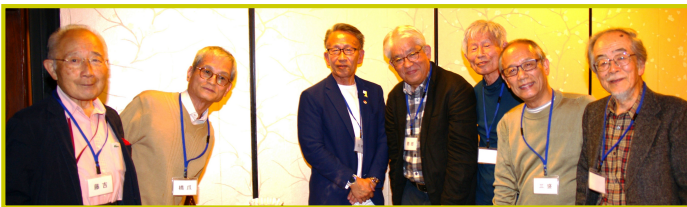
懇親会は川口理事の司会で始まり、大場会長の開会の挨拶と乾杯の音頭に一同笑顔でグラスを掲げました。お昼の時間を挟んでの観劇、しかも全身で大笑いの運動効果もあり、食事・飲酒がはかどり各テーブル

で親交が深まっていききました。徐々におなかを満たされ、ほろ酔い段階になったころに、其々が自分のテーブルを離れ、あちらこちらで懇談の輪がひろがっていききました。

まだまだ話は尽きないところでしたが懇親会の終わりにあたり、今井副会長の挨拶、西村さんの一本締めにてお開きとなりました。

最後になりましたが、皆様方には来年度の秋の行事にも、元氣でご参加頂けることを念じています。

(関西地区 池内 康)



2024年度 ミノルタ千代光会 【総会】

各地区の日程(予定) ご案内

《関西地区》

日時：3月2日(日)

場所：ホテル阪神大阪 10F
「ザ・ボールルームA」
(場所を変更しましたので、お間違えのないようにして下さい。)

総会：11:00～11:40

懇親会：11:40～14:30

ご案内：案内状(総会および
フォトギャラリー)を同封
しています。

「フォトギャラリー」も例年通り
実施予定ですので、ご参加よろし
くお願いいたします。

《関東地区》

日時：3月6日(木)

場所：品川プリンスホテル38F
味街道五十三次 日本料理
(ホテル入口、38F受付案内表示
してあります)

総会：12:00～

(11:30受付開始)

懇親会 13:30～15:00

ご案内：1月下旬にメール又は
ハガキにてご案内しています。

《中部地区》

日時：3月8日(土)

場所：サーラプラザ豊川
(JR豊川駅徒歩5分)

総会：11:00～11:50

懇親会：12:00～14:30

ご案内：2月初めころに往復
ハガキにて案内し、出欠を
確認いたします。

事務局からお知らせ

おめでとうございます

田=中部地区会員
園=関東地区会員
無印=関西地区会員

<古稀>

11月 谷 和道

12月 塩見 憲

1月 清川 彰

<喜寿>

11月 西岡 等 廣澤 政明 園 野原 良紀

12月 古川 哲久 田 今泉 優 田

<傘寿>

12月 小森 繁和 安田 勝也 田 岩田 友一 田

1月 山田 広二 田 東本 等 妹尾 直英

太田 和夫 児玉 幸子 山西 昭夫

<米寿>

11月 西村 孝夫 服部 義範 中北 義男

12月 井上 祥光

1月 中村 明 田

<卒寿>

12月 川上 安上 熊谷 敏 田

1月 太田 廣巳 田 池田 舒彦 福澤 香 田

対象者：2024年11月13日～2025年1月28日生まれの方

ミノルタ千代光会HP閲覧のおすすめ

令和6年11月 HP担当記

ミノルタ千代光会HPは、原則的に月2回
(1日と15日)更新、緊急時はその都度更新。
記事は1か月間掲載しています。

その中でも会員の皆様方に、特に閲覧をお勧
めしたいページの紹介をさせていただきます。

「生活知識・体験談」のページ！

老後を迎えると自分が元気な内に遣っておく
べき事柄、訪れて来る体の変化や病などについ
てなど、HPの「生活知識・体験談」のページ
をご覧いただければ、対処する上で参考となる
ヒントが記されていますので、是非ご活用いた
だければ幸いです。

(掲載例)

1. 後期高齢者医療保険手続き

2. 介護保険利用の手続き

3. 白内障について

4. 相続についての基礎知識

5. エンディングノートの書き方

などなど、多数の基礎知識・体験談などを掲
載しています。

HPの検索は、「ミノルタ千代光会」と入力し、
「千代光会2020」を開いて載くと閲覧頂けます。

閲覧後はお気に入りに保存下されれば幸いです。

理事会だより

1 1 月理事会（WEB会議）

- ◇高野山慰霊祭収支報告
- ◇関西地区議題
 - ・秋の行事について

1 2 月理事会

- ◇高野山慰霊祭役員交通費の件
- ◇今後の日程について
- ◇関西地区議題
 - ・2024年度総会について
 - ・推薦委員会報告

お悔やみ申し上げます

沖嶋 嘉郎	2021年11月
山本 正人	2024年 8月 9日
宮崎 仁孝	2024年10月16日
泥 達郎	2024年11月 7日
中根 正文	2024年11月 8日
片山 功	2024年11月 8日
田村 收	2024年11月17日
平本 嘉男	2024年11月24日

著作紹介

日本の未来を切り拓く25の処方箋
心と文化が導くグローバルリーダーへの道

釣島平三郎さん著

凋落した経済を立て直し、復活に向けた
未来投資戦略を25人の識者が鮮やかに
示す。

行き詰まった「日本」に効く25の処方箋がここにある！

- 目次●
- 第1章 危機に立つ国家日本
- 第2章 日本の復活は「教育改革」による機より始めよ
- 第3章 日本の識者に効く日本の教育改革
- 第4章 これからの日本経済復活に向けて
- 第5章 日本経済復活のカギは文化戦略だ！
- 第6章 識者から見た日本の復活への本質的なコメント

新入会員のお知らせ

今回は該当の方なし

【会員状況】

2024年12月17日現在

関西地区〔467名〕

中部地区〔194名〕 合計〔716名〕

関東地区〔 55名〕

追悼の辞

宮崎 仁孝さん

10月16日死去

「仕事を愛し、仲間を愛し、ミノルタを愛し、そしてみんなから愛された宮崎さんを偲んで・・・」

彼の訃報が入ったときには既にお葬式は済まされていた。元同僚の有志22名が、早速弔辞と
思い出の写真を寄せてくれた。それらを追悼文
集に纏めたが、その表紙の副題がこの言葉だっ
た。忌明けの三十五日法要に合わせて文集をお
届けし、有志の人数分のお線香を焚いて彼の
仏前にお供えしていただいた。

本当に彼はこの言葉どおりの会社人生を送
っていた。人望があつていつも仲間から信頼さ
れ、慕われていた。追悼文集に収録された22編
の弔辞は、いずれも彼との交流のエピソードや
共有した時間を愛おしむ語り口で、元氣だった
彼の姿を次々と呼び起こすので、その都度こみ
上げる涙で読み進むことができなかった。

宮崎くんはミノルタ特許部の6年後輩の80年
入社。発明発掘業務から、特許の権利化業務、
企画・管理業務を歴任。更には技術系の出身な
がら知財法務にも専門分野を広げていた。そし
てそれらの専門性を生かす最適地への異動を厭
わなかったのも、関東、中部、関西の各事業所
に公私を共にした多くの友人・知己を持つ。彼
は特許を天職に思つて終生を知財に生きたが、
そんな彼には忘れられない思い出がある。
それは、彼が会社を辞めたいと言つてきたと



きのことだ。会社の業績不振で早期退職を募ることになった折、部長だった僕は部員全員に通り一遍の退職勧奨の説明をしたのだが、直ぐにやって来たのが彼だった。その晩にナンバの居酒屋に誘って、「早とちりだよっ！あれは貴君に向けて言ったのではない、貴君はこれからの会社再建に必要な人材だよ」と説得して何とか引き留めることができた。

このときの説得のお陰かそれ以来定年にいたるまでずっと知財部を支えてくれた。コニカとの統合のときにも、八王子まで一緒に来てくれて統合知財の礎づくりと発展に八面六臂の活躍をしてくれた。本当に彼があつてのコニカノルタの知財だった。

彼の退職後に飲んだとき、互いに没後は高野山のミノルタ慰霊碑で会おうと約束した。その合祀の資格を得るために、彼は早速ミノルタ千代光会に入会してくれたのだった。こんなに逝き急ぐとは思っていなかった。又「早とちりだよっ！」と言って引き戻したい気持ちで一杯だ。

彼の最後は薬の副作用による激しい嘔吐と下痢との闘いだったと聞いた。苦しかったろう、辛かったろう。せめて今は、そんな苦難から解放たれて安らかに眠って欲しい。ひたすらご冥福を祈ってます。

(亀井 勝)

泥 達郎さん

11月7日死去

泥さんに初めてお会いしたのは1991年頃、私が秘書室勤務となり、総務担当常務だった泥さん、総務部の中村さんと頻繁に連携を取

り合うようになってからでした。

ちよつと強面の印象ながら飾らない人柄で、快活豪放細かい事にこだわらず部下に働きやすい雰囲気を作ってくれる方でした、ちやめつけがありちよつとおしゃれ。女子社員に「お嬢ちゃん、ちよつとすまんが・・・」と気軽に声をかけるひょうきんさもあり女性陣にも人気がありました。しかし重大な決断の際には強い使命感・倫理感に支えられた判断力・洞察力で、「あかんもんはあかんのや」と一徹な姿勢を崩さない一面もお持ちでした。

泥さんは太陽神戸銀行でお勤めのあとミノルタに入社されたのですが、若い頃当時の千代田光学が経営危機となり銀行から追加融資は困難と言われたとき、銀行から派遣されて経営内容実態調査に来られたことがあります。周到な経営分析と綿密な現地視察により在庫管理の在り方など様々経営再建課題を見極めるとともに、創業者田嶋一雄氏とじっくり面談されそのお人柄に大いに感銘を受けたそうです。思い切った厳しい再建策を実施すればこの経営者のもとで必ず再建可能との報告書を銀行幹部に提出し、その後追加融資が認められ経営再建策が実行推進されたとのこと。そんなご縁もあつて1987年当社常務取締役就任されたのですが、当社においても1993年の社長交代、事業の柱がカメラから複写機へ移行、海外生産体制の強化等々事業構造の大きな転換期に専務取締役として新社長を支え、事業再構築に尽力されました。1995年阪神淡路大震災のとき、鉄道も高速道路も不通になったため遠回りをしてご自宅の姫路から本社までの長時間の通勤に大変ご苦労されたことも思い出されます。

退任されるとき、「わしゃミノルタが好きだからミノルタ千代光会に入りたい」と熱望され当時の理事会の承認を得て入会されたのです。入会後は総会や各種行事にもよく参加され大勢の方と

広く交わりとても楽しんでおられました。関西地区行事で赤穂・小豆島方面へ行った旅行では、トレードマークの赤いベレー帽をかぶり、大変好きな忠臣蔵の話を皆に聞いてもらいたいと往復のバスの中で「武士道とは義なり・・・忠臣蔵の多くの逸話の中であれば実話、これは作り話・・・」と熱意を込めて話をしておられたことを懐かしく思い出します。お聞きしたところでは病気もされず90歳過ぎまで車の運転もゴルフも楽しむほど近年まで元気だったそうです。

愉快に面白く真摯に生きられ95年余の天寿を全うされたのだと感慨無量の思いです。永年のご厚誼に深く感謝し心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(松山 創)

